

地方都市におけるモビリティを活用した地域活性化プロジェクト (佐賀県基山町)

選択テーマ・フィールド

テーマ	C. 需要側の変容を促す仕掛け
フィールド	<p>実証実験エリアの居住人口は約3,600人(町内人口:約17,400人の約21%)であり、自家用車分担率は約50%,買物目的は約9割</p> <p>本町は、交通至便な地理的位置にあり、歴史的にみても交通の要衝の地。利便性の良さから福岡都市圏のベットタウンとして発展するも今後は急速な高齢化が進行(20年後の高齢化率:50%超)</p>

地域の交通課題

- 当町では急速な高齢化の進展やコロナ禍により町内移動ニーズが高まるものの、町内の公共交通は脆弱であり、マイカーを利用できない高齢者は外出機会が減少し、中心市街地の衰退や健康リスクの拡大等が懸念。
- 高齢化が進む中、町の活性化を図るためには、高齢者の外出・移動を促すための質の高いモビリティサービスの導入が必要不可欠。
- 実証実験エリアである「けやき台団地」は福岡都市圏のベットタウンであり、同年代の住民が多いため今後一斉に高齢化が進み、基山町の課題が先行して顕在化する地域。また、当該団地はスーパー等が立地する中心市街地と最大約2km以上離れ、高低差も大きく、地理的にも特に移動課題が大きい。



実証実験の概要

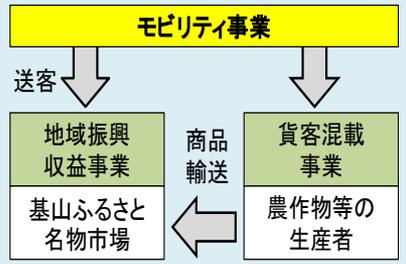
検証命題・検証手法	<ul style="list-style-type: none"> 持続的に地域活性化を促す事業モデルの構築に向け、「①利用しやすいモビリティ」と「②収益性の確保」を検証命題とする。 ①ではモビリティ利用状況の変化の他、活動量や外出率等の行動変容も含めて検証する。 ②では各事業における収益を試算し、採算性を検証する。
-----------	---

【モビリティ事業】町のビジョンや町民の移動特性・ニーズを踏まえ、3種類のモビリティを導入。計6台の10人乗り車両を、移動需要に応じて各モビリティへの割り当てを時間帯で変更。

けやき通り シャトルバス	オンデマンド 交通	通勤・通学 シャトルバス
<ul style="list-style-type: none"> 交通拠点や中心市街地、住宅地が立地するメインストリート「けやき通り」を15分間隔の高頻度運行 	<ul style="list-style-type: none"> 「けやき台団地内」は乗降場を密に設定 日常的な移動需要が多い町内主要拠点に乗降場を設置 	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業・学校の通勤・通学需要に応じて、特定時間帯での専属運行

実証実験内容

【他の収益事業】地域振興収益施設(基山ふるさと名物市場等)と一体的に運営。モビリティを活用した「送客サービス」と「農作物輸送サービス(貨客混載事業)」により、集客力アップや品揃えの充実を図り、収益向上を目指す。



社会実装に取り組んでいる新しいモビリティサービス

事業計画	<ol style="list-style-type: none"> ①モビリティ事業(けやき通りシャトルバス+オンデマンド交通) ②通勤・通学シャトルバス事業 ③モビリティを活用した地域振興収益事業 ④農作物や特産品等の貨客混載事業 ⑤健康増進事業や地域活性化事業等との連携
想定利用者	<p>【利用属性】基山町に居住、就業、来訪する方全員をサービス提供対象とするが、主な利用者として高齢者や子育て世帯を想定</p> <p>【利用目的】想定する利用者(高齢者や子育て世帯)の主な移動目的として、主に日常的な買物や通院を想定</p>

実施体制

団体区分	団体名(実施内容・役割)
代表団体	<ul style="list-style-type: none"> 福山コンサルタント(実証実験の事業管理・取り纏め主体)
参加団体	<ul style="list-style-type: none"> 佐賀県基山町(きやま地方創生モビリティ研究会の運営等) 熊本学園大学(実証実験における学術支援) 西鉄バス久留米(株)(モビリティ運行主体) (有)基山タクシー(モビリティ運行主体) きやま地方創生モビリティ研究会(佐賀県、基山町商工会、東明館学園、西日本鉄道(株)、九州旅客鉄道(株)、西日本高速道路(株)、(社)九州経済連合会、九州電力(株)、(社)EMoBIA)(各種事業連携)